
ASEAN-NAGOYA CLUB

「日本文化を知る旅」 報告書

2015年4月18日（土）～19日（日）

Indra Kesuma
Jaroonruangrit Nalynya
Lim Lyhong
Mardiansyah Mardis
Pak Chanlino
Sisouk Boualaphiane
Yuki Shimazu

日程：2015年4月18日（土）～19日（日） 1泊2日

留学生：Indra Kesuma Nasution、Jaroonruangrit Nalynya、Lim Lyhong、
Mardiansyah Mardis、Pak Chanlino、Sisouk Boualaphiane

同行者：松久ご夫妻、大黒ご夫妻、鈴木さん、田中さん、荻巣ご夫妻、島津

スケジュール	行動
4月18日	
9:20	太閤通口、銀の鈴集合
9:51	名古屋駅発（のぞみ15） *東京駅発 8:10
10:25	京都駅着
10:30～11:00	移動（京都駅⇒5条 近よし） by 徒歩
11:00～11:20	近よし チェックイン
11:30～11:50	大黒さん 町家見学
12:00～12:45	昼食(5条 松糸)
12:45～13:30	移動（5条⇒嵐山） by 地下鉄
13:30～15:00	嵐山散策
15:00～16:00	移動（嵐山⇒東山3条） by 嵐電・地下鉄
16:00	サムライ剣舞京都事業所着
16:00～17:00	①サムライ体験
17:15～18:15	②サムライショー
18:15～18:30	移動（東山3条⇒2条） by 徒歩
18:30～20:00	夕食（がんこ亭 高瀬川二条苑）
20:00～20:15	移動（2条⇒5条） by 地下鉄
20:15～22:00	カラオケ
22:00～	解散・宿泊
4月19日	
10:00	ホテル日航プリンセス集合
10:00～10:30	移動（ホテル日航プリンセス⇒妙心寺） by タクシー
10:30～11:20	妙心寺見学
11:20	妙心寺退蔵院
11:30～12:15	③退蔵院昼食
12:15～13:00	④退蔵院茶席
13:00～14:00	移動（妙心寺⇒清水） by タクシー
14:00～15:15	二年坂・三年坂散策 散策しながら祇園甲部歌舞連場へ移動
15:15～16:30	都をどり
16:30～17:30	移動（祇園/地下鉄河原町駅⇒京都駅） by タクシー
17:45	京都駅発（のぞみ136）
18:21	名古屋駅着 *東京駅着 20:03

Mardiansyah Mardis

2015年4月18日、ASEAN-NAGOYA CLUBのグループは名古屋を出発して、その後の二日間を過ごす日本の古都、京都へ向かいました。京都へは新幹線というとても早い電車で行きました。新幹線は大変性能がよく、京都駅までわずか30分で到着してしまいました。

一日目、私たちは大黒さんの町家を訪問しました。ここでは50年～100年前の日本人の暮らしぶりを学ぶことができました。その後「松糸」で昼食を頂きました。畳のある落ち着いた空間で、とてもおいしい和食を頂き、本当に昔の日本に行って食事をしているかのように感じました。



その後、嵐山に行きました。嵐山は、日本の美しい自然や美味しい食べ物を楽しむことができる、私の最も好きな場所の一つです。今回は、大黒さん、インドラさん、私の三人でボートに乗りました。他の人たちはとても簡単そうにボートを動かしていましたが、私が挑戦した時には、全力で漕いでもほとんど進まないか、同じ場所をぐるぐる回るだけでした。インドラさんも挑戦しましたが、同じ結果だったので、お互

いに大笑いしました。最終的に、大黒さんに権をお願いして、ようやく川を一周することができました。私たちのグループでは、大黒さんが一番上手でした。

ボートを漕ぐのに悪戦苦闘した後、サムライ剣舞体験に行きました。そこでは、侍について学ぶだけではなく、着物を身に着け、本物の侍になるための講習を受けました。とても興味深く、おもしろかったです。講習も実演も全て英語で行われました。サムライ剣舞の実演と講習が終わった後は、各自思い思いのスタイルで写真を撮りました。最後にサムライ剣舞体験の修了証を頂きました。

次は夕食の時間です。私たちは「がんこ亭」に行きました。食事は大変美しく盛り付けられており、スタッフの方々はとても礼儀正しくおもてなしをしてくれました。日本の伝統文化を感じながら、夕食を楽しむことができました。

二日目は妙心寺に行きました。このお寺はとても壮大で、その場にいるだけで安らぎを感じました。私たちは精進料理を頂き、美しい庭園の自然を眺めながら抹茶を頂きました。庭園に入ると、とても心が落ち着きました。



次に、二年坂・三年坂に向かいました。そこには、日本で最も有名な寺の一つであり、ユネスコの世界遺産に登録されている清水寺があります。清水寺は二年坂からはかなり離れた場所にありましたが、私とインドラさんは行ってみることにしました。私たちは、土産物店やレストランが並ぶ長い坂をどんどん上がっていきました。私はいくつかの店に入り、餅を食べました。その店には、試食がたくさん用意されており、様々な味の餅を無料で楽しむことができました。（笑）

清水寺の後は都をどりを鑑賞しました。都をどりでは、舞妓さんと芸妓さんが、とても精巧につくられた舞台装置、音楽、衣装で様々な物語を表現していました。都をどりを堪能した後、京都駅から名古屋に戻ってきました。大変素晴らしい二日間でした！

Indra Kesuma

まずは、ASEAN-NAGOYA CLUB の皆様、先生方、そして一緒に旅行した友人たちに心から感謝したいと思います。私にとって、今回の京都旅行はビートルズの「The Long and Winding Road」のようでした。長く、曲がりくねって、そして言い表せないほど素晴らしく、とても楽しいものでした。「長く、曲がりくねった道」とは、日本社会の発展の歴史も表しています。

京都旅行には、三つの重要な要素である「食 (eat)」「笑 (laugh)」「行 (play)」が詰まっています。一つ目の「食」は愉楽のシンボルです。私たちは伝統的な和食を楽しんだだけでなく、食べることを通して、日本の食文化の歴史を学ぶこともできました。和食に加えて、京都の自然の美しさ、町家の造り、そして素晴らしい踊り

も楽しむことができました。二つ目の「笑」は、幸福と信頼のシンボルです。京都にいる間、私たちはたくさん笑い、語り合って親睦を深め、そしてとても幸せでした。幸せは成功するためには欠かせない要因の一つです。「行」は練習と実施のシンボル

です。私たちは、侍がどのように刀を扱うのか、また、武士道とは何かを学び、実際に刀を振りながら、その重みを感じました。

最後に。人生には苦役が必要です。しかしその苦役は、愛があれば幾分か楽になるでしょう。All you need in love. Love is all you need.



Sisouk Boualaphiane

ASEAN-NAGOYA CLUB の二日間の京都旅行は、素晴らしいとしか言いようがありません。私にとって、京都を訪れるのは初めてではありませんでしたが、これほど特別な旅行は初めてでした。

今回の旅行を通して、京都の自然（川、花、山）と古い寺院の美しさを改めて知ることができました。京都はとてもユニークで、一度訪れたら忘れられない場所であると思っています。しかし、自分にとって特別な人たちと一緒にあった今回の旅行は、より一層魅力的で、生涯忘れることができないものとなりました。

特にサムライ剣舞体験はとても面白く、同時に難しかったです。私にとって初めての経験ばかりの旅行でした。本当にありがとうございました。

この旅行を計画し、私を含めた ASEAN 地域の留学生に素晴らしい機会を与えてくださったこと、心から感謝しています。



Jaroonruangrit Nalynya

まず初めに、今回の素晴らしい旅行を計画して下さった ASEAN-NAGOYA CLUB の皆様に、心よりお礼を申し上げます。今回の旅行は、留学生にとって、まさしくパーフェクトなものでした。私は以前、京都に住んでいましたが、今回の旅行では新たな経験をし、多くの思い出を作ることができました。

一日目、私たちは「町家」を訪れる機会がありました。私は、町家の中に入るのは初めてでした。そこでは、日本人の生活について学び、町家がいかに保護する価値のあるものであるかを知りました。

午後、私たちは嵐山に向かいました。桂川でボートに乗るのも初めてでした。一緒のボートになった他の留学生の皆さんと、それぞれの経験や思い出を語り、とても楽しい時間になりました。私には、たくさんの留学生の友人がいますが、タイの近隣諸国の友人はあまりいないので、今回、彼らから多くのことを学ぶことができました。



次に、サムライ剣舞に行きました。ここも、私にとって初めて訪れる場所でした。ここでは、日本では未だに「武士道」が根付いていることを説明して頂きました。英語でとても上手に説明して頂いたので、昔から現在に至るまでの侍の歴史を理解することができました。

翌日は妙心寺の退蔵院に行きました。ここでは精進料理を頂き、日本とタイの仏教の違いについて学びました。最後に、都をどりを見学しました。とても感動し、日本人の目に映る美しさとは、とてもユニークなものでありながら、同時に多くの外国人にも評価されるものであることを学びました。今回の旅行を計画してくださり、本当にありがとうございました。

Pak Chanlino

この度は、素晴らしい京都旅行に参加する機会を頂き、本当にありがとうございました。この忘れられない京都旅行を計画してくださった ASEAN-NAGOYA CLUB の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

もし私が ASEAN-NAGOYA CLUB に出会っていなければ、日本文化や伝統に触れることはできなかったでしょう。今回の京都旅行は、ただ楽しいだけのものではなく、私のような外国人留学生にとって、日本の和の心や日本人の価値観をより理解することができる、とても価値のあるものでした。

日本の寺院、サムライ剣舞、都をどり、そして和食について学ぶ機会を頂き、本当にありがとうございました。特に、和食の味と素晴らしい盛り付けは、一生忘れることはありません。

ASEAN-NAGOYA CLUBの皆様、本当にありがとうございました。特に、今回の旅行を計画してくださった、松久さんご夫妻、大黒さんご夫妻、鈴木さんには、大変感謝しております。



Lim Lyhong

4月18日～19日に ASEAN-NAGOYA CLUBの京都旅行に参加させていただきました。この旅行で、日本文化を学んだり、体験したりすることができました。特に、私の印象に残っている以下の二つの点について述べたいと思います。

1. サムライ剣舞体験

日本の代表的な物といえば、恐らく「寿司」や「桜」や「相撲」だと言う人が多いでしょう。しかし、その他にもあると思います。それは、「侍」です。今回の旅行で、私たちは侍の歴史とその展開を学び、そして実際に体験させていただきました。

侍（武士）は、刀を持ち、大名などに仕えた人たちです。侍は非常に心強く、誠実さを有しており、大名などのために一生懸命戦っていました。何かに失敗したら、責任を取るということを表すために、腹を切ります。また、侍精神は現代の日本人の心の中にあると言われていています。

2. 「都をどり」鑑賞

「都をどり」は、1872年に始まり、4月1日～30日、京都祇園甲部歌舞練場で開催される舞踊公演です。今回は、第143回となります。この踊りは、日本の美しい自然と豊かな文化を表しているものだと思います。

3. 感想

私は日本に来て、約 3 年になりましたが、これまでサムライ剣舞を体験したり、「都をどり」を観たりする機会はありませんでした。しかし、今回の ASEAN-NAGOYA CLUB の旅行で「都をどり」を観て、日本の文化の美しさと素晴らしさについて実感することができました。とりわけ、サムライ剣舞を体験することによって、日本人の性格についてより理解することができました。それは、勤勉さと責任感です。すなわち、日本人の多くは勤勉さを有しており、責任感が非常に強いです。昔の日本は、侍が大名のために一生懸命戦っていて、失敗したら、腹を切っていました。この精神は現代の日本人にも繋がっていると思います。日本は第二次世界大戦後、高度経済成長を成し遂げました。その理由の一つは、この侍精神である勤勉さだと思います。また、何かを失敗したら、現在でも辞職するという形で責任を取ります。

今回の旅行で大変お世話になった松久さんと奥様、大黒さんと奥様、鈴木さん、田中さんをはじめ、ASEAN-NAGOYA CLUB の皆様に厚く御礼申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、私の報告とさせていただきます。



町家（大黒さん宅）見学

最初に、大黒さんの町家を見学させて頂きました。まず驚いたことは、高いビルが立ち並ぶ一角に、突然昔ながらの家々があったことです。また、中に入ってからも、テーブルやソファと火鉢や畳が違和感なく一緒に存在しており、とてもおもしろいと思



いました。「伝統」と「最新」、「西洋文化」と「日本文化」が融合した、現代の町家の新しい姿を見ることができました。一階の台所はとても天井が高く、煙がこもらない仕組みになっていました。趣のある小さな中庭も、ただ眺めるだけのものではなく、風の通り道になっているそうです。町家は、生活しやすいように様々な工夫がされており、見た目以上に、とても機能的であることがわかりました。



二階には、忍者屋敷のように引き戸の中に隠された急な階段で上がって行きました。私たちの宿泊した町家でも、階段はとても急だったので、昔はこれが普通だったのであれば、とても大変だったであろうと思いました。二階には太くて曲がった梁があり、屋根

に積もった雪の重みや、地震の揺れを分散する効果があることを学びました。他に二階で気になったのは、窓が四重（格子戸・網戸・ガラス戸・障子）になっており、さらに外側には簾があったことです。大黒さんにお伺いしたところ、日本には四季があるので、どの季節にも対応できるようにしていることを教えてくださいました。町家は、人々の生活に合った住居であることを知りました。



サムライ剣舞体験

サムライ剣舞体験では、衣装を身に着けて気分は本物の侍でした！！剣の構え方や振り方、足さばきなどを素敵な師範に丁寧に教えて頂き、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、侍の生き方や歴史、血判や切腹などの方法についても学び、現代社会に息づく「武士道」に触れることができました。



七人の侍

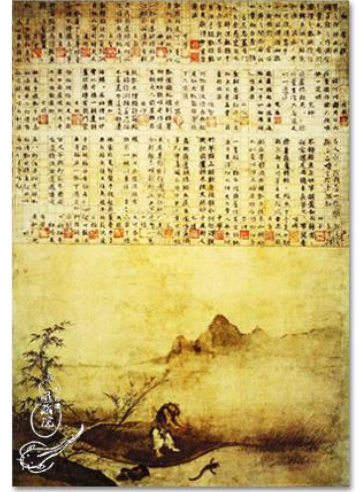
ASEAN-NAGOYA



妙心寺 退蔵院訪問

退蔵院には如拙によって描かれた日本最古の水墨画である「瓢鮎図（国宝）」がありました。ここには「小さな瓢箪で大きな鮎（なまず）をいかに捉えるか」という禅の公案（修行のための問題）が記されており、図上には京都五山の構想 31 人の賛（回答）が並んでいます（退蔵院パンフレットより）。

賛には「瓢箪でおさえた鮎でもって、吸い物を作ろう。ご飯がなけりゃ、砂でもすくって炊こうではないか。（梵芳）」などがありますが、ASEAN-NAGOYA CLUB メンバーがその場で考えた回答は以下のとおりです。なんて現実的！！



Lyhong :

瓢箪の口から入るほどの小さな稚魚の時に中に入れて、瓢箪の中で大きく育ててから食べれば良いのではないかな？

Phiane :

瓢箪を二つに割って両手に持ち、挟み込むようにして捕まえれば良いのではないかな？



精進料理は美しく盛り付けられており、とてもおいしく、想像していたものとは全く違いました。また、釜で炊いたご飯の焦げにお湯を注いで、塩で味付けをして飲むことにも驚きました。米一粒も無駄にすることなく、おいしく頂くという、禅のところに少し触れることができました。食事を頂きながら、タイとラオスの僧侶の食生活や慣習などについて話しました。タイの僧侶は「食事は人々から頂いたものなので、何であつても残さず頂く」ため、肉も魚も口にするそうです。しかし「無駄にすることなく最後まで頂く」という部分は、禅宗とも共通しているように感じました。

美しい庭園が見える茶室で抹茶を頂いた際には、一口飲んですぐに「コンビニで売っている抹茶は、抹茶であつて抹茶でない！」という禅問答のようなやりとりも始まりました。出されたお菓子は抹茶を飲む前に食べることで、茶碗を回すのは正面を避けるためであることなどを学びながら頂きました。

都をどり

二日目に第 143 回「都をどり」を鑑賞しました。とても華やかな舞台装置と衣装で、最初から最後まで目が釘付けでした！演目は第 1 景から第 8 景までであり、それぞれ日本の四季を表現していました。

開場を待っている間には、舞妓と芸妓の違いを学びました。舞妓と芸妓は年齢が違うだけでなく、着物や髪飾りにも違いがあることがわかりました。とても興味深かったことは、舞妓は地毛で日本髪を結っていますが、芸妓は鬘だということです。

今回の演目の中で、私たちが最もおもしろいと思ったものは「源頼光土蜘蛛討（みなもとのらいこう たちぐもうち）」でした。勇ましい音と光に圧倒され、上から目の赤く光る蜘蛛が降りてきたり、土蜘蛛の手から糸が出てきたりした時には、思わず声を上げてしまいました。他にも「新口村雪道行（にのくちむらゆきのみちゆき）」では、真っ白な雪景色の中で黒い着物の男女が演じており、こちらはとてもシンプルでしたが、悲しげな音楽と合っており、とても惹きつけられました。

最後のフィナーレは、全員の舞妓と芸妓が再び舞台に登場し、桜の名所の一つである平野神社を題材にした演目を舞いました。桃色の桜の中に、水色の着物がとてもよく映えて、大変美しかったです。Lyn さんは以前から都をどりのファンですが、今回の旅行で新たなファンが加わったことは言うまでもありません！！



(画像：都をどり公式 Facebook ページより)